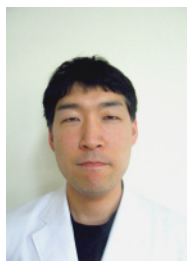




新しく着任した医師のご紹介

腎臓内科・透析内科医師の原大輔と申します。これまで、広島大学病院、市立三次中央病院、原田病院での勤務を経て、今年度より青山病院で勤務させていただくことになりました。呉地区の医療に少しでも貢献できるよう尽力したいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、どうかご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



「ウイルス」

言葉 医療の

ウイルスとは、病原体の一種で、細菌より小さく、電子顕微鏡でやっと見える大きさです。他の生物の中で増えて、病気を引き起こします。

細菌には抗生剤が効きますが、ウイルスには効果がありません。毎日この名前を聞かない日はないウイルスと言え、新型コロナウイルスではないでしょうか。これまでコロナウイルスは6種類知られていました。(新型コロナウイルスで7種類目) いわゆる風邪の2~3割はこのうち4種が起きているといわれています。

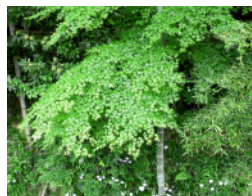
残りの2種は「SARS(サーズ)」と「MERS(マーズ)」で、過去に世界で流行し、今でもこれらに感染している方もいます。

治療法はいまだに確立されていない恐ろしいウイルスです。

ウイルス感染を予防する為に、こまめな手洗い、アルコール消毒、マスクの着用、室内は換気を行い3密を避けるといった基本の対策を行いましょう。



コロナ禍の今年、人込みを避け、野山で「風薫る五月」を満喫してみよう。



風薫る
5月になると時候の挨拶に「風薫る五月」などと表現したり、俳句の季語に「薫風」が使用されたりします。語源は9世紀の唐の詩人、柳公権の漢詩「薫風自南来 殿閣生微涼」(薫風南より来り、殿閣微涼を生ず)の中に記載された「薫風」と言われ、読みにして日本語化した言葉と言われており、「薫風」は(くんぷう)と読み、木々の間を若葉の匂いを含んだ風が吹き抜けていく様を表現する言葉とされています。
世間一般に5月は春だと認識をされている方が多いと思いますが、与謝蕪村の句に「薫風や恨みなき身」夏ごろも」とあるように、5月は既に夏と区分され、季語「薫風」は特に初夏、5月を示すとされています。また、暦の二十四節季の中では「春分」と「夏至」の中間にあたる日を「立夏」と呼ぶ、立夏から二十四節季で「芒種」(ぼうしゅ)と表された日の一日前までが初夏とされており、これを令和三年に当てはめてみると、今年5月5日から6月4日までが初夏という事になります。
花が咲きそろう、新緑が美しく、寒暖の差も無く、5月は身体にも目にも優しい一年で最も過ごしやすい季節ではないでしょうか。

診療案内 (今月より外来担当医が変更となります)

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診
休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)

担当医

月曜日	午前：青山	午後：大村	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：大村	午後：宮里	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：宮里	午後：卜部・原		午後：井料(脳神経内科)	
		(腎臓内科)	土曜日	午前：内科(交代制)	

季節の風景



田植え